

## 大学を去るに当って感謝の気持ちを込めて

誉 清 輝

人生という舞台では様々な役割が演じられ色々な思いも寄らない出来事が起こるものです。小学生の頃、私は将来大学の教壇に立つという夢を持っていました。まさか幼少時代の夢が叶うとは夢にも思っていませんでしたが、12年前の偶然の出会いがきっかけとなり、この長年の夢を実現することが出来ました。光陰矢の如し、今年の3月で定年を迎えて、授業の時間表のような「定刻による規則正しい生活」にはピリオドを打つこととなりました。この寄稿は自らの客員教授生活を振り返る貴重な機会となりました。

### 〈夢を叶える：奇跡の出会いから教授の道へ〉

奇跡が起きたのは1998年のある日、東武東上線池袋駅の改札口で、18年振りに大学院の同期草野先生と再会したことです。当時貿易会社を経営していた私は、輸出業務は日々の為替レートの変動で収入が減り、何とか別の仕事を探そうと考えていました。草野先生に友人のよしみで「非常勤講師でもいいんですが…」と相談したら、非常勤講師の資格審査には著書か学会で発表した論文の実績が必要と言われて、その時は一旦諦めました。

それでも、2000年中国上海交通大学来日訪問教授と早稲田大学の通訳で知り合って、私のそれまでの社会経験と書類審査の上、同大学の管理学院博士後期課程の特別入学許可を得ました。同年9月に20年ぶり学生生活に戻り、仕事をしながら頻繁に上海まで飛行機通学をして、幸いに2005年博士学位を取得しました。2008年1月海外出張から帰った時、一通の非常勤講師任命の通知を受け取りました。その年の4月から火曜日第1時限の授業「国際マーケティング」を始め、2年後には客員教授に任命され、それから大学院経営学研究科の特論、修士論文の指導も任されました。また、他大学から非常勤の依頼があって、姉妹校の城西国際大学大学院国際アドミニストレーション専攻の修論の指導、「国際人事」、「企業実践統治」など講義を4年、和光大学で「国際マーケティング論」の担当を1年、また母校早稲田大学大学院商学研究科で「東アジア企業の国際競争と協調」の講座を6年間続けました。

### 〈心に残る履修生たち〉

経営学部で12年間担当した科目の履修生は殆ど経営学部の3、4年生でした。通常は1年か2年連続履修ですが、その履修生の中に例外で連続6年間履修した学生がいました。それは城西健康市民大学からの二人の聴講生です。「国際マーケティング」と「流通経済論」の二つの授業に、いつも二人が前列に座って、その一人丹野さんは私が来日翌日知り合った46年来の親友です。彼は東芝勤務時代台湾新幹線導入に携わった事があり、定年後彼の友人田中さんに誘われて城西大学健康市民大学に一緒に入学して来ました。その田中さんは東大卒、一流企業の部長を退職し、特に84才を超えても毎回授業中ノートを取る真面目な勉学態度に感銘しました。丹野さんは3年前パーキンソン病で来られなくなりま

したが、田中さんはずっと一人で授業を受けました。私の生涯学習の手本です。

#### 〈文武両道：剣道は六十の手習い〉

よく六十の手習いと言いますが、私は還暦で剣道に入門しました。城西大学の剣道部との出会いは教職の意外な収穫でした。当時初段の私の稽古の相手は私のゼミ生で、彼らは小中学生の頃から剣道を習いすでに3段か4段の有段者で、学部の授業とは逆の立場で、私の剣道の先輩になった彼らから「愛情のこもったしごき、厳しい指導」をしばしば受けました。剣道部井川監督と城西国際大学今井監督のご了承を得て毎年両大学剣道部合同合宿に参加し、春期は千葉鴨川、夏期は長野白馬村で素晴らしい体験をして過ごし、楽しい部活動の思い出が一杯です。その稽古のお陰で3年前10回目挑戦の4段に合格しました、これからも毎年特別部員として参加する予定です。来年の5段審査には一発で合格する自信が湧いて来ています。

去年7月辻先生、山口先生の提案で、国際交流センター主催のヨーロッパ交換教授の歓迎パーティーで、日本の伝統武道である剣道と居合道の演武を行いました。二人の剣道部女子部員と切り返し基本を演じ、現在持病の膝と腰の痛みがあるため、10年ぶりの居合道演武は立て技だけしか出来ませんでした。模擬刀の剣先をおれない様に注意しながら「柄当て」「袈裟切り」「諸手突き」「顔面当り」「添え手突き」「総切り」「抜き打ち」などの技を終えた時、両膝の震えは止まりませんでした。最後の皆さんの拍手喝采でほっと息つくことができました。

#### 〈学外の思い出：林家正蔵のラジオ番組にゲスト出演〉

学外の思い出に、文化放送『林家正蔵師匠のサンデーユニバーシティ』に2回ゲスト出演しました。初回2013年3月は正蔵師匠と石川真紀アナウンサーのサポートで、緊張しながらも無事番組収録が終わり、2回目2016年11月はスタジオの雰囲気に慣れて瞬く間に終わりました。その当時、私は家族3世代で生活しており、その経験から共生する家族の絆はある程度距離を保つことが必要であると思っていましたので、その方法について語っている内に時間があっという間に過ぎてしまいました。

#### 〈韓・中・台・日の諸大学との交流〉

海外を含む諸大学との交流では、韓国東西大学主催の日韓次世代学術フォーラム国際大会に、引率教授として合計8回、諮問教授として4回参加しました。韓国では全南、東亜、東西、亜洲、韓神の諸大学、国内では九州、一橋、立命館アジア太平洋、神奈川の諸大学があります。各大会の翌日の調査研究旅行では現地の観光で貴重な体験をしました。また、中国の交流訪問では大連理工大学、上海交通大学、北京師範大学、南京大学、ハルビン師範大学など数十校あります。さらに台湾の国立政治大学の国際関係センターから連続8年招聘されて、日中台の国際討論研究会に講演者として参加しました。昨年9月訪問教授に任命されましたが、今回新型コロナウイルスの影響で台湾に行けないのは大変心残りです。

最後に、多くの先生方、経営学部事務室の方々のご支援があったからこそと、感謝の言葉を申し上げなければなりません。大変有難うございました。経営学部・経営学研究科そして城西大学のこれからのますますの発展を心からお祈り致します。